

令和3年度神奈川県ボランティア活動補助金（継続）申請事業審査会質問照会

提案者	特定非営利活動法人よこはま言友会
事業名	親子きつおん交流会事業
質問項目	
<p>(1) 2月6日のユニコムプラザ（相模原）でのイベント開催について</p> <p>①相模原市は2月7日まで緊急事態宣言により市内公共施設のほとんどが閉館になっているため、実施できないのではないかと？</p> <p>【回答】 完全オンラインで親子きつおん交流会を2月6日に開催いたします。</p> <p>②開催の場合は、参加者数（親・子・関係者別に）、開催状況などの概略と成果をお知らせください。中止の場合は、参加申し込み数など。また、開催への準備をどのように行ってきたか（リアルとオンライン・ZOOMの同時開催の予行演習、機器の購入・設定・操作テストなど）、2/6は講師講演のみオンラインか。参加者間のグループワークは行わなかったのか、また、実施あるいは準備を通して、次年度以降の事業の遂行に対して得たプラスの効果等について。</p> <p>【回答】 1月29日現在 申し込み数209名 県内73名 県外136名 分類 家族106名 当事者25名 学校関係者 32名 ST30名 医者3名 その他13名</p> <p>開催準備 1月23日 講師・司会・フリートークセッション・実行委員・ボランティア(1名)でZOOMでの通信具合確認 1月28日 ZOOMの操作 ミュート・録画・画像確認 2月6日 吃音フォーラムでは、完全オンライン(ZOOM)で①先生の講演②参加者はチャットのみで質問などを行うことが出来る。③先生・ことばの教室の先生・保護者代表3名で、参加者からのチャットでの質問を受けれるフリートークセッションを行う。</p> <p>*今回は、参加者間のグループワークは行いません。対面でのイベントからオンラインでのイベントに急遽、変更しましたが、参加申し込み者が多く、よこはま言友会としましては、初めてのオンラインイベントであり準備が間に合わない。</p> <p>(2) オンライン手法への対応について</p> <p>①R3年度の交流会は、講演だけでなく参加者間のグループワークも行う計画となっておりますが、どのような準備を予定していますか。オンライン開催はハイブリットな開催方法なので、準備等に対応できるスタッフはすでにいますか？</p> <p>【回答】 対面とZOOMでの同時での座談会となり2倍の人手が必要になりますが、ZOOMのビジネス契約機能を使い、ZOOMの参加者をグループ分けでの座談会を予定しています。各グループには、代理ホスト(司会)を置きスムーズな運営をします。ZOOMの代理ホストは、全国の言友会の仲間の協力を得ます。来場することなくご自宅等で対応できるのでZOOMでの座談会には対応できます。</p> <p>②新型コロナの影響で、交流会がオンライン開催になるということですが、ある意味参加のハードルが下がったとも言えます。これを逆手に取り、より広くかつ多様な人の参加を集める工夫や、今までつなげていなかった層へのアプローチなどがありますでしょうか？</p>	

【回答】

よこはま言友会は、ツイッターでの発信は少ないのですが、今回、共催の「吃音のある子どもと歩む会」が宣伝をリツイートしていただき、そのネットワークからツイッター見てくださる方が多く、全国からの申し込みが増えてきています。日常での小まめなツイッターでの情報発信が必要と思いました。

- ③来年度中にオンライン対応を高める(技術的・機器的・利用者への普及性など)計画についておしらせください(ぜひともオンライン手法をマスターし、貴団体活動に導入頂きたいと思えます。)

【回答】

よこはま言友会自体が ZOOM の操作に慣れていないのですが、2月6日の親子きつおん交流会は、13時から開催しますが、午前中の1時間、参加者に ZOOM 接続のテストなど実施します。ZOOM の操作に不慣れな方、初めての方の対策です。

これが好評なら利用者への普及性のアップになりますので、今後も続けていきます。

(3) 行政や他機関への働きかけ・協力関係・波及性への活動について

- ①申請書(P6)に、「事業の他団体等への波及性、[課題と今後の対応]イベント開催時は、神奈川県教育委員会、各市教育委員会の後援を通し県、市に働きかけます。」と記載がありますが、行政や他機関への「働きかけ・協力関係」の活動について、具体的にどのように行っていくのか、内容と今後の活動対象の課題や計画を教えてください。

【回答】

よこはま言友会の行事や例会にも出来ない吃音者が引きこもっている話を良く聞きます。神奈川県社会福祉協議会、横浜市社会福祉協議会に働きかけ、吃音関係のパンフレットなどをくばり、悩んでいる吃音者にセルフヘルプグループの存在を知ってもらう活動をする。

(4) 補助金終了後の展開について

- ①「補助金終了後の展望」(申請書 p.6)に「保護者のネットワーク構築」と記されています。とても大切な取り組みだと思います。一方で、子どもの受験や家族のライフスタイルの変化で、この種のネットワークはつながりが薄れたり、活動が停滞したりすることも多いという面も持っています。それを避ける方策、ネットワークを継続的に続けていくための考えはあるでしょうか？

【回答】

小学校のこたばの教室に例にとりますと、子供たちは中学校進学でこたばの教室との連絡が途絶えてしまいます。よこはま言友会は発足から20年以上継続して活動しているため、活動の安定性はあると自負していますので保護者のネットワークの底支えとしての役割、イベントの共催、金銭的な問題で協力関係を続けていきたいとの思いがあります。

- ②「会費収入の増加」と記載がありますが、「具体的な数値目標(会費の値上げ?会員の増加?その他?)」と行動計画を教えてください。

【回答】

昨年、コロナ禍の影響により、例会や行事が相次いで中止となり、一度も例会や行事に参加できない会員も多く、令和3年度は、会員の減少が予想されます。令和3年度は、年会費4800円としていますが、未成年会員の年会費2400円、今期、70才以上年会費会員2400円の会費に変更をおこない、若い会員の増加と年配者会員の退会防止で会員数を維持していきたいと思えます。例会見学から会員になってくれる方が多いのでコロナ禍での対面での例会中止は、痛いです。令和4年度には、会員数15名アップの会員増加をめざし、助成金70,000円分をカバーする計画です。

③自立していくための資金獲得を現状どのように計画（具体的に）しておられますか？

【回答】

イベントの助成金がないと、イベント開催時のよこはま言友会の持ち出し分が多くなり、会員の理解も得にくくなります。令和3年のイベントで助成金がない場合は、参加費500円/一人程度の参加費を予定します。会費か助成金以外の資金獲得のノウハウがありませんので、よこはま言友会でできるチャリティでの資金調達を考える。

④「安定的持続に向けた自立化の状況」については、今後も団体の身の丈に合った活動を地道に続けていくということだと思います。ですが、それだけでは惜しいとも思います。当事者の子どもたちのためにも、少しずつでも活動の範囲を広げていただきたいと思います。いかがでしょうか。

【回答】

昨年、川崎市中部身体障害者福祉会館を日曜日の午後使用できるようになり、川崎日曜例会として活動を開始いたしました。昨年はコロナ禍の影響もあり、閉館が多くまだ、軌道に乗っていません。この川崎日曜例会は、子どもたちが参加できる時間帯ですので、年に何回か子ども例会として整備（リーダーの確保等）をしていく予定です。また、令和4年には、よこはま言友会が所属するNPO法人全言連の全国大会をよこはま言友会で開催いたしますので、吃音の子どもも楽しめる分科会を開催し、子供たちとの交流を深めます。

提案者	特定非営利活動法人フュージョンコムかながわ・県肢体不自由児協会
事業名	在宅ケアが常時必要な方を対象にした生涯学習の訪問サービス事業
質問項目	
<p>(1) 今後の展開と自立へ向けての考え方・取組み</p> <p>①本事業に対する関係者の関心や期待の高さを感じました。本事業の安定した継続のために、貴団体が想定する生涯学習支援対象者の上限をどの程度の人数と考えているのかお聞かせください。</p> <p>【回答】</p> <p>現在の私たちの運営力では、20人前後が上限であると考えています。</p> <p>今後、インクルーシブが進み、現在活動されている生涯学習の場（社会資源）に、障害のある方が積極的に参加されるケースも増えると期待していますが、私たちの事業は、常時医療的ケアが必要で現在の社会資源の活用が最も困難な方々を対象にしており、運営には資金と人材（専門性）が必要になります。退職教員等で構成されている学習支援員の確保や、安定的な運営のため資金確保など課題は多くあります。制度化の道が開かれれば行政からの支援を受け、難病や障害の重い方の生涯学習に参入する事業者も増えると考えます。状況が整備されるまでは、なんとか私たちの手で生涯学習の場（訪問サービス）を守りたいと考えています。</p> <p>②生涯学習支援対象者一人当たりの年間必要経費（教材や支援チームの支援員数等、支援対象者一人当たりの経費等のランニングコスト）について改めて考え方をお聞かせください。</p> <p>【回答】</p> <p>生涯学習支援対象者一人あたりのランニングコストですが、それぞれのニーズに応じて展開しているのでかかる経費には、ばらつきがあります。</p> <p>○支援者一人あたりのコスト概算 140,000円 内訳：謝金@2,000×3回/月×2人×9月+交通費@500×54回+教材費5,000 <内訳：かかる経費について> ○謝金 一人当たり8,000～16,000円/月</p>	

2,000円/1回 回数は2~4回(入院やショートステイのため実施できない月有) 学習支援員の支援力を高めるためにも出来る限り2人態勢で実施している。

○交通費 電車やバス、自家用車など(平均5~600円程度/回)

○教材費 資料はインターネットや図書館を利用するが、製作材料費等は購入している。今年度は主に宅配教材等の購入に充てたが、今後は視線入力等 ICT 関連の教材購入が必要になる。

③事業を通じ、大きなニーズがあることが確認できたと思います。2年目はより広い範囲での事業展開を進めていくと思いますが、それを前提にすると、資金面に不安が残ります。今後の自立を考えると、利用者の増加を資金面にも生かす工夫が必要だと思いましたが、どのような考えをお持ちでしょうか。

【回答】

利用者の増加を資金面に生かす工夫としては、①授業料の増額と②寄付の2点を考えています。①授業料の増額は、生涯学習の必要性を生涯学習支援対象者のご家族にご理解いただき、年間授業料を増額することや、訪問回数により段階的に授業料を増額するなどの工夫が考えられます。②寄付については、個人や企業から寄付を得やすい形、例えば認定NPOやクラウドファンディングにチャレンジすることなども検討していく必要があると考えています。また、機器の開発協力も含めた企業の社会貢献の場としての活用や、大学の体験学習の場としての活用なども視野に入れていきたいと思っています。

ただ、導入時の今はできるだけ授業料を抑え、希望すれば誰もが生涯学習の訪問サービス事業を受講できる状況を生み出したいと考えています。現在の5,000円は負担を感じさせない額だと実感しています。年間授業料を低額に抑え般化させることで、まず生涯学習の意義・必要性を地域社会に発信し、事業を発展充実させることを先決に取り組みたいと考えています。

(2) コロナ禍への対応について

①令和3年度もコロナ感染は収まりそうもありません。R2年度には、電話、宅配、リモートを活用した展開に取り組まれたようですが、R3年度はさらに本格的なオンラインツールの導入を図っていく必要があります。来年度へ向けてオンラインによる学習支援の課題と対策等について、今年度の取り組みを踏まえて、来年度のさらなる効果的なオンライン手法での事業展開への取り組みをどのように考え、かつ具体的に取り組んでいくか、できるだけ詳しくお聞かせください(訪問サービス事業、インターンシップの双方において。また、zoom参加障がい者間の交流を図る、等々)。

【回答】

人との関わりの基本は、「直に触れ合う、時間や場を共有すること」にあると思います。私どもの生涯学習支援対象者の中には、「見る」ことが難しい方も多く、視覚や視線の使い方を注意深く見極めてあげる必要があります。生涯学習支援対象者によってはオンラインの画面だけの認識は難しく、訪問できない期間は直に触れる宅配教材が有効な場合もあります。

一方で病室訪問の方は、今年度は年間を通して全く訪問が叶わず、母の短い面会時間を活用してLINEの動画で繋がれたことは、本人、家族、学習支援員にとって希望の光となりました。オンラインの手法は、彼らの生活を豊かにする手段としても一層効果的に取り入れる必要があると考えています。そのためには、①学習支援員の研修及びインターネット環境の整備 ②生涯学習支援対象者のインターネット環境の把握と支援 ③実践例の蓄積等が、必要だと考えています。①については、独自に研修会を開催しインターンシップ事業の大学と連携を図り、授業へ導入・展開に努めたいと思います。先日R4年入学希望者の訪問教育の授業を見学させていただきました。教室の友達とのオンライン授業が展開され、友達とリアルタイムに係わることができていました。改めてオンラインの有効性を感じ、訪問サービス事業でも生涯学習支援対象者同士に係わる場面や、インターンシップの大学生と係わる場面を設定する必要性を感じました。そのためのPC環境等の整備が課題になります。②についてはR2年度の事業評価の際に、各家庭のインターネット環境や活用度を改めて調査します。PC環境が整備され活用

度の高い生涯学習支援対象者から、保護者等ご家族の協力を得ながら LINE 動画や Zoom によるリモート講義などご自宅の環境を考慮し、生涯学習支援対象者の学習の楽しみや幅を拡げたいと考えています。③は、インターシップ事業では大学生との関わりに関心の高い生涯学習支援対象者も多く、大学生自身のアイデアも生かしオンラインを活用していきたいと思っております。オンラインを活用すれば気軽に大学生と繋がることができ交流の機会や量は大幅に増加すると考えます。訪問サービス事業では、オンラインの導入だけではなく、マウスの働きを行う視線入力にも取り組みたいと考えています。近年ローコストの視線入力装置が発売され、色々なアプリも開発されているので、研究開発事例に学びながら実践を重ねていきたいと考えています。

提案者	特定非営利活動法人スマイルオブキッズ
事業名	病気や障害のある子どものきょうだい児支援事業

質問項目

(1) R2 年度の成果について

①1/9 に実施したシンポジウムについて、参加者の内訳（当事者、一般、行政担当者など）がわかれば教えてください（概要で良いので）。

【回答】

参加者アンケートの結果

職業別では、教育関連、医療福祉関連、看護師、主婦、保育士などが多かったです。立場別では、きょうだい支援に携わっている、仕事できょうだい児と関わっているという方が多く、次できょうだい児の親、きょうだい児本人でした。

②また、シンポジウムの開催により、次年度以降の事業の遂行に対してプラスの効果があれば、教えてください。

【回答】

R1 年度に開催した研修会に参加していた方からのお申込みも多く、継続して関心を寄せてくださっていることが分かりました。ご登壇の先生方からのご紹介による参加者など、全国にネットワークが広がりました。メールでのやり取りできょうだい支援活動に熱心に取り組んでおられる方々とも繋がることができました。

(2) R3 年度の事業について

①「事業期間全期間の展望」に、2 年目（R3 年度）では、「自立支援員の育成に向けて準備を進める」とあるが、補助金事業（シンポジウムの開催）との関係について教えてください。

【回答】

R2 年度の登壇者の新家先生は自立支援事業の研究をされており、事業の展望などをお話いただきました。R3 年度も引き続き自立支援事業の委託を受けている団体や行政関係者に講演を依頼し、自立支援員の役割などについて学ぶことができると考えています。

②また、シンポジウムについては、「新たな課題の目的を抽出する」とあります。R3 年度に開催予定のシンポジウムについて、（現時点での）目的、内容、想定されるターゲットについて、計画があれば教えてください。

【回答】

きょうだい支援の事例などを紹介して、その重要性を周知するという開催の目的は変わらずに継続します。

現状の身近な課題として、新型コロナウイルスの感染拡大により、こども医療センターにきょうだい

いが入館できない状況があります。この影響もあり当法人の保育の利用が増えていますが、情報が行き届かず居場所のないきょうだいもいるようです。コロナ禍という特異な状況がきょうだい児の心身にもたらす影響についても目を向けて、支援のあり方を考えることも必要だと思います。

(3) 全体として

①これまでの事業を通して、基金 21 補助金事業を実施することによって得られた成果について、シンポジウムの開催そのもの以外の副次的なものがあれば教えてください。

【回答】

シンポジウムの広報では多くの後援を得ただけでなく、自立支援事業の所管である県保健福祉局のご担当者にも連絡し、各部署にチラシの配布を依頼することができました。

また、リラのいえ開設当初に協働事業を実施していたこととその内容を、法人内で改めて知る機会となりました。基金事業課より提供いただいた事業終了後のインタビュー記事をスタッフで共有し、活動の意義や創始者メンバーの思いが今も変わらず受け継がれていることを再確認できました。

ボラフェス実行委員会に途中からですが参加させていただきました。動画作成の講座は大変勉強になりました。今後も動画を作成し、HP で公開するなど新しい広報ツールとして活用したいです。

(4) オンライン導入について

①新型コロナの影響による活動の制限が強く感じられました。シンポジウムはオンライン開催するということですが、活動に反映したり、課題解決に生かしたりする成果はどのようなものがあったか、具体的に教えてください。

【回答】

全国から参加いただけたのでオンライン開催の意義は大きかったと思います。広報として法人の Twitter を開始したため、これまで活動が知られていなかった層にも、シンポジウム開催告知を通して関心を持っていただくことができました。滞在施設運営事業のネットワーク会議でも告知し各地の施設スタッフの参加がありました。滞在施設としてできるきょうだい支援や、病院との連携について今まで以上に考える機会としていただいたようです。

②シンポジウムをオンラインで開催するため、「湘南市民メディアネットワーク」に業務委託して実施するようだが、委託費 15 万の内訳を教えてください。

【回答】

配信打合せ・現場確認・準備・リハーサル等費用/1 回/30,000 円

配信撮影費(カメラ 2 台 当日準備・テスト・本番含め)/8,000 円×6 時間/48,000 円

配信ソフト操作費(当日準備・テスト・本番含め)/10,000 円×6 時間/60,000 円

消費税 13,800 円 合計 151,800 円

③今般の状況を考えると、今後もオンラインでのイベントを検討していかなければならない状況になるだろう。その際、業務委託に頼らず他の方法を考えていく必要があると思うがいかがか？

【回答】

デジタル全般、団体の苦手分野なので難しい課題だと感じています。大規模なイベントの開催はまだしばらく業務委託に限らざるを得ないと思います。

まずは団体内でのオンライン会議をスムーズに運営することを目指しています。中小企業デジタル化応援隊事業を活用し、IT 専門家にオンライン会議に必要な機材の選定と使い方の指南を受ける予定です。

次の段階として、支援者交流会やオンライン見学会など、小規模なイベントの実施を企画しています。

④オンラインツールを駆使した活動展開は今後必須のものと思いますが、貴団体内にオンラインツールを駆使出来る人材および人材育成の状況、およびオンライン導入へのお考えについて教えてください。

【回答】

③の回答のように、段階を踏んで活動展開していきたいです。現時点では、オンラインツールを駆使できる人材はほとんどいません。R2年のシンポジウムは急遽オンライン併用の開催となり、経費を抑えて業者に委託しました。団体内のスタッフを育成することも視野に入れて開催しましたが、積極的に関わられる人材が少なく、結果として十分な視聴環境を整えることができませんでした。

この反省を踏まえ、IT技術に特化したボランティアを募集する案や、柔軟に対応できる若い世代の活動参加を促す意図で大学生インターン制度を導入する案などが出ています。

提案者	一般社団法人アニプロ
事業名	飼育放棄された老犬・老猫及び傷病犬・傷病猫を介護するケアハウス運営事業
質問項目	
<p>(1) コロナ禍での飼育放棄の状況について</p> <p>①コロナ禍の影響により飼育放棄が増大しているとのことですが、その具体的状況と対応についてお教え下さい。(例えば飼育放棄件数の増大状況、受入れ上限数を超えた時の引き取り依頼への対応方法など。)</p> <p>【回答】</p> <p>新型コロナウイルスの影響で、失業や収入減となり、ペットを飼えなくなるという相談が増えたと感じます。放棄しなくて済むように細かく状況確認をし、提案をしますが、それでも飼育継続が困難という場合、自身で新たな飼い主探しができるよう、探し方など詳細にご説明をし、対応してまいりました。</p> <p>受け入れ上限数を超えるほど、放棄が増える事は想定したくありませんが、その場合は一時的に県愛護センターへ放棄として収容し、後ほど引き取るという方法となるかと思えます。</p> <p>②また、今後、老犬猫、傷病犬猫以外の犬猫のケアハウスへの収容比率が高まる可能性はありますか。</p> <p>【回答】</p> <p>当法人では、基金の対象事業であるケアハウス事業とは別に、元気な犬猫を収容し新たな飼い主探しを行う「アニプロホーム」という事業がありますので、老犬猫・傷病犬猫以外はそちらで管理する事になります。</p> <p>老犬猫、傷病犬猫以外の引き取りは、高まる可能性は低く、若齢、純血種、小型に関しては新たな飼い主は見つけやすい傾向にありますので自身で飼い主探しができます。</p> <p>新たな飼い主が見つかることが難しい、老犬猫、傷病犬猫については今後も増える可能性が高いです。</p> <p>(2) オンラインの導入について</p> <p>①令和3年度もオンライン方式で講演会や譲渡会を実施する場合に、対面方式とは異なった工夫や留意が必要と考えることがあればお教え下さい。</p> <p>【回答】</p> <p>新型コロナウイルス蔓延の影響で皆さんが今までと違う生活となり、その中でオンライン方式というのを採用し新たな発見もありました。</p> <p>講演に関しては、わざわざ足を運ばなくても良い為、参加数も多く今後も回を重ねる事で、参加者が増えていく手応えを感じています。オンライン上のチャット機能で質疑応答もできますので、人前</p>	

で意見を伝えるのが苦手な方も参加しやすくなっていると感じます。

譲渡会に関しては、オンラインだけでは限界があることも判明致しました。

犬猫に関しては動画と説明だけでは伝わらない、伝えられないことも多数あります。飼い主とのマッチングに関しては、やはり対面の面会を屋外で行っております。感染予防に留意しながら今後の事も含め現在も模索中です。

(3) 県内関係団体との連携構築について

- ①貴団体には県内でリーダーシップを発揮して頂くことを期待しておりますが、令和2年度その他ボラとの共催実績を踏まえ、今後の他団体との共催や收容動物の情報共有について、どのような団体に、いかなる方法で呼びかけて連携関係を構築することで、県内団体の牽引役となっていこうとするのか、お教え下さい。

【回答】

動物の保護活動は、保護・飼養する団体だけで成り立っているとは言えません。保護・飼養だけではなく、啓発・イベント企画・トリミング・獣医療など様々な方のご協力の上で成り立っています。今年度に引き続き、動物を保護・飼養する団体と、動物保護活動を支援する事に積極的な企業とを結びつける団体との連携等も広げていきたいと考えております。

譲渡会/オンライン譲渡会の他の団体との共催は、オンラインが苦手だからと諦めていた団体も参加でき、保護動物にとっても飼い主探しのチャンスが広がり、飼育希望者から見ても選択支が増えるといった利点がありますので、今後比重は増してゆくものと思います。

收容動物や情報などに関しては、行政職員と共有し、行政職員より多方面のボランティアに情報を出して戴くようお願いをしてきました。放棄等に関しては、個人情報や所有権等の法律的な部分にも留意しなければならない為、基本的には行政と情報共有し、相談しながらの対応とする必要があります。

ボランティア団体とはいえ得意分野はそれぞれ違いますので、行政からの各ボランティアへの情報共有後に状況を確認し、得意分野のボランティア団体へは個別で連絡し、ご対応頂けるように補足情報をお伝えしたりなどし、対応が素早く行われるようにしてきました。

- ②後に続く団体の育成という意味を含め、県内で同様の活動をする団体へのノウハウ移転などについての検討はあるでしょうか。

【回答】

他の団体が引き取った動物に関しても、その後動物が手に負えないという相談などにも応じています。動物の取扱い方や対応の仕方をお伝えし、それでも世話の継続が厳しいという事になれば、当方で引き取るケースも少なくありません。

昨年度は、他の団体から、お手伝いに行きその上で難しい犬の取扱い方を教えてほしいという申し出があり、複数のスタッフの方々が数回お越しになりました。人訓れしていない犬や口が出てしまう犬などとの向き合い方などを、実際に当方で暮らしている犬を見ながら、犬の行動に対する人の対応方法など詳細をご説明しました。今後も、ご依頼があればできる限りご対応をする意向です。

但し、新型コロナウイルス感染拡大が終息していない現在、積極的な呼びかけを行っていく予定はありません。

(4) 人材育成について

- ①安定的な事業継続には人材の確保が必要ですが、今後のスタッフ増強に向けた、ボランティア人材の具体的な育成計画をお教え下さい。申請書や幹事会からの質問への回答にも一定の記載がありますが、より具体的に誰が担当して、年間何名ぐらいの人材を、どのような研修を通して育てていくのかなどについて、教えて下さい。

【回答】

現在注力中なのは、施設にほぼ常勤で当社団法人の核となる動物の取扱いに精通したスタッフの育成です。一方ボランティアスタッフについては、本事業の実態を理解してもらうべく、現場でのOJTを中心に研修をしております。但し、コロナ禍であることから現時点ではボランティアスタッフの勤務スケジュール等の調整に忙殺されています。

また希望者にも色々な立場があり、スタッフも色々な仕事があるので現実理解とマッチングには外せない大きな課題です。

平時であれば基本的に団体側にとっても参加希望者にとっても活動の入り口として、譲渡会が好都合な場なのですが、開催できない現在はネット上でのやり取りから実際にコンタクトの場までの流れをステップとして捉える必要があります。「動物の為に人がやりたがらないことも率先してやれる」ことが前提で、自宅付近の犬の糞をみかけたら片付ける等も活動であることも理解して実践して頂く。団体ワークとしては預かりスタッフ等のつながりによる周辺サポートを入り口と捉え、ホームでのサポート業務を最上位のステージとし、分割・段階的にとらえ、それぞれの持ち場でOJT研修「活動実態」への理解を深めてもらう事、など入門の仕組みづくりを始めたところです。人材としては（途中離脱を含め）年間10名程度でも、4～5名の方が定着すれば良いし、ホームでの業務に携わって頂ける人は、1～2名程度確保できればと想定しています。今の体制ではそれ以上受け入れても、目が届かなくなることが危惧され、いずれもコロナ禍での危機管理の下、臨機応変に柔軟に対応することが前提です。

②関心を持つ人が増える一方で、ちょっと“困った、ボランティアの存在も浮き彫りになった様ですが、その関心をいい方向に生かすためにも、ボランティア人材の育成に取り組むことも重要ではないかと思えます。その考えはあるでしょうか？

【回答】

人材育成に関しては、当方でも重要な部分として常に検討しておりますが、無用な事故やトラブルを未然に防ぐために拙速に事を進めてはならないとも認識しております。

この活動は多くの人にとって外から見て持ったイメージと、現場の現実との間にギャップがあることが一般的です。（重労働、力仕事全般）ボランティア希望者が増える事は、大変うれしい事でありましたが、扱う対象が動物という事で無料のふれあい動物園と勘違いされる様な方が多くいることに驚きました。

対象は動物の活動なのですが、身体障害（犬猫）、知的障害（犬猫）、精神障害（犬猫）、老齢介護（犬猫）、重病（犬猫）、重症（犬猫）、末期ガン（犬猫）、手厚いケア等が必要な動物たちが一緒に暮らしている中に、人に例えるならその中に未就学児（経験の少ない犬猫）もいるグループホームといった環境です。安易に動物が好きだから、飼育経験があるから、というだけでは簡単に対応ができる活動ではありません。常に目を離せませんし、一つ間違えれば事故につながるという事と、健康管理は特に重要な部分であり、感染症対策、衛生管理、排せつ物の処理が殆どの活動といっても過言ではないという事を、お伝えをさせて頂きました。

今までは、代表が個別に都度対応をしてきましたが、希望者は多種多様で個別対応では限界になってきていることを踏まえ、より詳細な事前アンケート、ボランティア誓約書なども取り入れていき対応していく予定です。

より深い理解を即した上での人材確保に向けて、スタッフ育成と増員に繋がればと考えております。

（５）補助金終了後の展開について

①新型コロナで想定外の状況になりましたが、いろいろ工夫を重ねて、発展的な活動につなげてきたことが伝わってきましたが、補助金終了後の資金面での自立化に向けた具体的計画についてお教え下さい。申請書では、有償引取り事業をスタートさせて安定的な収支構造を構築するとしておられますが、令和3年度に引取料収入は計上されておられません。幹事会からの質問への回答は拝見しておりますが、補助金終了後にどの程度の引取料収入が必要となり、それを実現するために、貴団体のいかなる

価値をどのように伝えることで、飼主との間に安心と信頼を築くのか、もう一步具体的にお教え下さい。さらに、引取料収入以外に、資金面での自立化を図る際の資金源と考えているものがあれば、併せて具体的計画をお教え下さい。

【回答】

引き取りプログラムについては、令和3年度ではトライアルを検討しており、トライアルでの問題点・飼い主との取り決め等を評価分析の上、将来に向けてのスキームを築いていきたいと考えております。

福祉の観点からの動物の引き取り及び生涯費用に対し理解頂くこと。ケアハウスとしてのトータルな観点から成立させることが具体的計画に取り組むべき土台と考えております。

- ・2021年カレンダー販売では、当団体へ協賛法人の広告を掲載し、広告料収入を得ました。これら法人を当社団法人とのコラボを通じての資金源の創出機会を検討するつもりです。
- ・賛助会員増大に向けての地道な広報活動の継続も重要な取り組みの一つとして検討中です。なお当団体の価値は日々の手厚い医療ケア、闘病中の動物たちの明るく前向きな様子がSNSで断続的に発信されており、その信頼感から多くの相談が寄せられている結果となっています。

②「補助金終了後の展望」として、2年目は1年目の活動を継続・やや展開したものと例示されていますが、3年目部分では施設修繕、人材育成、施設の変容などが並べられていて、正直唐突感がありました。この3年目部分を確実に実行するために、2年目にできる活動、考えていることなどを具体的に示してください。

【回答】

3年目に向けて、2年目で施設運営についての一定の体制の強化・安定を実現し、3年目では代表が、広報活動、啓発活動、関係団体との折衝、協力等により多くの時間を費やせるようにと考えています。

資金面からの計画視点では「唐突」となるのかもしれませんが、色々な状態の個体を多数収容する施設なので、コロナ禍で無くとも消毒液を用いた大掃除は頻繁におこなっている事も含め施設の痛みが早くなるので修繕などが必要経費として発生する事は避けられません。

収入増への施策は継続的課題で、その一環から前述のような取り組みを模索し発展させていく所存です。

③同じく、3年目記述部分に「クラウドファンディングやスポンサーシップによる資金調達も視野に入れつつ」とありますが、これは2年目の活動では全く着手しないということでしょうか？ いずれも良い面ばかりとは限らないため、もし今後の活用を検討しているなら、早めの準備も必要ではないかと思いますが、いかがでしょうか。

【回答】

『いずれも良い面ばかりとは限らないため』当方も同様に感じており、クラウドファンディングで一時的に資金調達をしたとしても、その後の運営に支障がでる資金調達では意味がありません。利用に関しては慎重に検討した上での検討要件だと考えた上での資金調達方法の一つとして考えており、必要に応じて行う予定です。

スポンサーシップに関しては、当方の活動の啓発を継続的に行う事や、今年度始めたケア会員、チャリティカレンダー協賛などから広がっていくと考えております。

④昨年度は会員数が順調に増えたということですが、活動が定着するにつれ、会員を増やしていくことが難しくなる側面もあると思います。それを踏まえ、さらに会員を増やす方策はどのように考えていますか？

【回答】

まずひとつに多様なイベントへの積極的な参加が考えられます。イベント開催が再開できるように

なってからではありますが、イベントにてより多くの方に活動を知ってもらいます。

基金21のボランティアフェスタは、新型コロナウイルス感染症に伴う緊急事態宣言が出てしまい中止となつてしまいましたがYouTubeを使った動画配信を行ってくださっており、今回基金21を使い様々な活動をされている皆様の動画の中に、当法人の動画も入れて頂き配信して頂いております。様々なボランティア活動の配信の中に、当方の活動も一緒に配信して頂けた事は、新たな繋がりを持てるきっかけとなり得ますので大変ありがたいことでした。

また、これまでに物資やご寄付等をくださった方々に、より断続的にご支援いただけるよう活動をお伝えし呼びかけていきます。

コロナ禍で多方面の方がお困りになられている中、当方も大変困惑した1年でした。

今後も国、県の方針に対応しながら、引き続き、行政職員と協力し、地道な活動と実績を今後も積み重ねていくことがもっとも重要であり、SNSを通じた活動内容の発信にも力を入れてまいります。